

平成30年5月定例記者会見要旨(平成30年5月2日)

1. サウサリート市との交流 30 周年を迎えて、今後の国際交流事業について

サウサリート市とは、昭和 63 年 3 月 31 日に坂出市役所にて姉妹都市提携の調印式を行って以来、相互訪問とともに交換留学生の形で短期留学生の派遣と受け入れを行っている。これまでにサウサリート市から 146 名の留学生を受け入れ、坂出市からは 223 名の留学生を派遣している。

また、文化・芸術部門での交流も盛んに行われており、市民煎茶グループ曙がサウサリート市で市長らを招き、ひな祭り茶会を開催したほか、市民劇団テアトルローマンによる天狗公演会の開催、相互の小学生の児童絵画作品展や写真パネル展の開催、さらには私が市長になってからはアメリカでも有名なサウサリート・アート・フェスティバルへ参加するなど、市民相互の交流を深めているところである。昨年は交換留学生として来た生徒の中で、日本語を話せる生徒を交流員として受け入れ、ネイティブの英語を学生や市民の方に知っていただいた。

今年に入り、サウサリートにある小学校より 20 名あまりの生徒を修学旅行として連れて行きたいとの相談があり、今月受け入れる予定である。「交流の里おうごし」をベースに、カヌー教室、鴨川福神太鼓の協力による和太鼓の体験、小学校 3 校を訪問しての給食体験など、子どもたち同士の交流を図っていききたい。また、王越婦人会の協力による地元料理や昔遊び体験などで地元の方とも親しんでもらうなど、市民との触れ合いを進められる良い機会と思っている。

サウサリートも姉妹都市協会のメンバーが代わっており、これからの新しい交流についても協議したところである。お互い、あまり無理をせずに長く続けていこうという話を進めているところである。なるべく、市民の方が参加できるように交流の幅を広げたいと思っている。

2. 坂出市の男性平均寿命が県平均を下回る結果となったが、市長の見解と今後の対策について

平均寿命と健康寿命があるが、平均寿命は人口動態統計をもとに作成する簡易生命表から算出される数学的統計数値であるとされている。厚労省から全国的に出していくので、直接、市が出したものではない。一方、健康寿命はアンケート調査である国民生活基礎調査の回答から得られる感覚的統計数値という表し方である。この両者は似通ったり、かけ離れたりするもので、本市の数値は今までも結構、上がったたり下がったりしている。県内における、本市の平均寿命は平成 27 年では、男性は 17 位、女性は 4 位、22 年は男性 7 位、女性 17 位、平成 17 年は男性 12 位、女性 3 位である。その年の前年に若い方が亡くなると平均は下がってくる。

私たちとしては、平均寿命の調査結果に一喜一憂することなく、平均寿命や健康寿命の延伸を目指して健幸のまちづくりに積極的に取り組んでまいりたい。

今年度より「健やかに幸せに」というキャッチフレーズで、健幸推進係を作り、全庁的に進めていきたいと考えている。部長、課長という縦の仕組みとけんこう課や生涯学習課、ふくし課も含めて横の連携も含めたプロジェクトを考えて進めたい。

具体的には、ラジオ体操と併せてウォーキングをやっている方もいるので、ウォーキングマップを作成して、マップ上の総延長距離を何分で歩くとどれくらいのカロリーを消費するかなどを示すとともに、健康遊具の設置を進めており、今年度は2カ所ほど増える予定である。また、鎌田池公園などには駐車場を作っている所以、車でそこへ行って運動してもらうとか、雨の日などは商店街のアーケードを利用して歩いている方もいる。ウォーキングマップと健康遊具を使ってのストレッチ、それにラジオ体操をマッチングさせて、モチベーションを上げるために、例えば点数制度を設けるなどして、利用者を増やす方法も考えていきたいと思っている。